

2019年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

■2019年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組の進め方を記述し、2020年7月自己点検委員会で確認した。

また、2020年度第1回学校関係者評価委員会に報告した。

■アンダーラインは新規の意見・課題

大項目	中項目	2019年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方
重点目標	2. 重点目標と達成するための計画・方法 (1)TPCの育成と強化	○第一の基本方針である、TPC*の育成と強化については、各学科の特性に応じたさまざまな取組が工夫されて行われており、学校全体として着実に成果を上げている。 ○教科指導におけるアクティブラーニングの手法の導入は、年々着実に前進が見られるが、入学時オリエンテーションやマナー指導・実習・学校行事などの機会を活用した授業外の指導にさらなる工夫が求められていることから、教務委員会や学生委員会を中心とした取り組みに引き続き期待したい。	継続	校長	■授業外でのTPCの指導については、引き続き教務委員会や学生委員会を中心に具体的な取り組みを推進する。今年度は、学校行事の多くがやむを得ず中止となる見込みだが、双方向オンラインのツールを用いて、新たにアクティブラーニング的な手法を導入した指導も試みる。
		* TPC…Think(考える力)、Positive(積極性)、Communication(対話力)。本校では「社会人としての総合力」がこの3つの要素から成ると捉えている。	継続	教務委員会	■オンライン授業の導入に伴い、ネットを介した教員・学生間のコミュニケーションツールやフィードバックツール等の下地が整いつつある。対面型授業の実施においても学生の主体性を促せるよう、有用性のある学習ツールを模索し、提案していく。また、授業公開等の機会を利用してアクティブラーニング型授業の手法に取り組んでいる授業の参観を推奨し、導入の推進を図る。
			継続	学生委員会	■学生生活ガイドに記載の「社会人になるため、在学中から意識したい校内でのマナー」および「社会人になるため、在学中から意識したい校内でのマナー集」を使用して、各担任からオリエンテーションの際に指導してもらう。 ■学園祭では、学生に役割と可能な部分の裁量権を与え、主体的に動き、創意工夫ができるようにする。 ■これまでは教職員が中心として行ってきた、朝のあいさつ当番の運営方法と、あいさつの標語を委員の学生に検討させ、実施する。
1 教育理念・目的・育人人材像	1. 理念・目的・育人人材像 (1)理念・目的・育人人材像は定められているか	○専門学校は入口と出口が大切である。入口では入試のフォローや留学生についての準備、教育については研修や授業公開で努力している。出口についても2-40、卒業生フォローを充実していこうとしている。入口、出口、教育の3つのステージについてバランスよく考え、実践されている。引き続き、質を高めていくことに期待している。	継続	校長	■専門課程屋間部の各学科の教育を中心に、入学者の受入・教育課程の編成・卒業認定について、教育を取り巻く環境の変化との整合を引き続き図り、時代に合った質の高い職業人教育を提供する。
		○各学科における3つのポリシーの再確認をしっかりと行って、引き続きそれぞれの教育を進めて欲しい。	継続	校長	■学科運営計画や学生募集要項等に示されるように、3つのポリシーの確認は学科ごとにほぼなされており、それらに基づいた具体的な計画を引き続き推進する。
			継続	キャプションライター養成科	■年度当初に3つのポリシーを再確認した上で学科運営計画に基づいて教育を進める。
			継続	医療秘書科	■3つのポリシーを学科教員が共通理解した上で、学科運営計画に基づいた教育活動を推進する。
			継続	医療マネジメント科	■学科教員全員で3つのポリシーを共通理解し、それを具現化した学科運営計画に沿って実践する。
			継続	診療情報管理専攻科	■学科教員全員で3つのポリシーを共通理解し、それを具現化した学科運営計画に沿って実践する。
			継続	くすり・調剤事務科	■双方向の授業方式の導入により、積極的な参加の習慣化、物の見方や意見の違いを理解して考える力を身につける、課題解決のための提案力・対話力を身につけることで、3つのポリシーを達成していく。
			継続	介護福祉科	■学科の3つのポリシーを意識し、教育や指導に取り組んでいる。 ■授業、実習を通し、求められる介護福祉士像を目指し指導している。
			継続	鍼灸医療科	■3つのポリシーについて、学科会議や教員間でしっかりと情報共有と確認を行い、学生指導の強化を図る。

大項目	中項目	2019年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方
			継続	看護科	■教育の質的転換を図る上で、①看護の楽しさを深める力のある人材獲得(アドミッションポリシー)として、指定校推薦者の複数獲得を図る。また、②個々の教員はカリキュラムの中で国家試験を意識して授業展開を工夫する(カリキュラムポリシー)。③実践力が備わり学び続ける人材の輩出(ディプロマポリシー)が出来ているのか、年度末に評価していく。
	(2) 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	○職業実践教育を更に充実させるためにも、引き続き関連業界との連携の強化に取り組んでほしい。	継続	キャプションライター養成科	■関連業界との連携を深め、専門分野の人材育成を推進する。
継続			医療秘書科	■実習先病院訪問や医療従事者による特別講演、また第三者委員会や卒業生からご提供いただく情報を生かし、学生の職業観醸成を促し専門分野の人材育成を推進する。	
継続			医療マネジメント科	■病院実習、特別講演、採用活動等あらゆる行事を通して、また兼任教員や専門分野で就業する卒業生等からの情報収集に努め、医療業界の動向を知り、医療機関等が求めるニーズを把握し、それに見合った人材の育成を目指す。	
継続			診療情報管理専攻科	■病院実習、特別講演、採用活動等あらゆる行事を通して、また兼任教員や専門分野で就業する卒業生等からの情報収集に努め、医療業界の動向を知り、医療機関等が求めるニーズを把握し、それに見合った人材の育成を目指す。	
継続			くすり・調剤事務科	■定期的に関連企業、関連協会との打ち合わせ会を実施していく。	
継続			介護福祉科	■各領域のねらいや教育内容の目的、主旨を踏まえ、相互の体系的な関連性・順次性を考慮した教育内容を図る。 ■関連業界との情報交換・共有をし、教育の中に取り入れていくかを精査し活用していく。	
継続			鍼灸医療科	■専門分野の学会や研修会へ積極的に参加し、そこで得た情報や動向について教員間で共有し、授業等にも反映させる。 ■鍼灸分野以外でも連携して活かせる分野をカリキュラムに導入し幅広い鍼灸師を育成する。	
継続			看護科	■実習施設とは、実習協議会及び実習指導者会を通じて連携をはかり、近年の学生の特徴や、指導方法について共通理解していく。	
	(4) 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	○外国人の支援や社会人の学び直しは社会が求めていることであるため、先を見越しての運営をぜひ進めていただきたい。	継続	校長	■外国人の学びを支援するために留学生向けの奨学金を拡充するとともに、社会人の学び直しの教育についても、専門課程昼間部だけでなく、夜間・休日等の講座も含め、引き続き具体化を図る。
2 学校運営	1. 運営方針	○運営方針の周知の仕組みはしっかりとしている。常勤の教職員に対する浸透度の確認は工夫して進めている。兼任講師に向けた働きかけの工夫が引き続き求められる。	継続	校長	■兼任講師に向けては、掲示や配付文書だけでなく、新たに生まれつつあるオンラインでの接点も含めて、日常的な働きかけの機会を増やしていきたい。
	3. 組織運営	○目標達成に向け、教職員が協力、連携した効率的な校務分掌による組織運営を円滑に行ってほしい。	継続	校長	■教職員間で組織目標を共有するため、オンラインを含めて教職員に対して校長が直接語りかける機会を増やし、周知徹底を図ることとしている。

大項目	中項目	2019年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方
3 教育活動	2. 教育方法・評価等 (1)教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	○現場で求められる人材像の変化に対応するカリキュラムを創意工夫するように引き続き努めてほしい。 ○社会に出て、すぐに使うことのできる知識や技術も大事であるが、物事を継続してやり抜く力や、押さえられても元に戻ることもできる力も身につけるために、専門学校での2・3年間で何ができるかを引き続き考えてほしい。 ○必要な知識と技術を身につける前提に、本人の勉強に対する動機づけや気持ちの持続性があると思われるため、その仕組みの検討も引き続き行ってほしい。	継続	校長	■2021年度に予定されている専門課程屋間部の学科再編を視野に入れつつ、各学科・委員会等において、PDCAサイクルによる改善を、継続的に推進する。
			継続	キャプションライター養成科	■技能教育を通じ達成感の積み重ねに配慮した教育を行う。
			継続	医療秘書科	■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会におけるご意見を基に、学生を医療現場で求められる人材に育成できるよう、カリキュラムの見直しを随時行う。またデジタルネイティブ世代である学生に向けた学習効果を高める教育方法を実践する。 ■専門知識・技能の習得とともに、キャリア教育の一環としてレジリエンスの指導方法を探る。
			継続	医療マネジメント科	■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会のご意見を基に、現場で求められる人材を輩出できるよう常時カリキュラムの見直しを行い、より良い教育内容の提供を目指す。 ■単なる知識や技術の習得ではなく、自分の将来像を描き、何のために必要なかを意識させ、目標をもって自主的に学ぶ姿勢を継続できる力を身につけるよう指導する。
			継続	診療情報管理専攻科	■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会のご意見を基に、現場で求められる人材を輩出できるよう常時カリキュラムの見直しを行い、より良い教育内容の提供を目指す。 ■単なる知識や技術の習得ではなく、自分の将来像を描き、何のために必要なかを意識させ、目標をもって自主的に学ぶ姿勢を継続できる力を身につけるよう指導する。
			継続	くすり・調剤事務科	■双方向の授業方式の導入により、時にはグループ分けして、テーマを決めて討議、発表などを通して課題解決能力などを身につける。 ■「応対の技術」などの授業内で、学んだ知識が、応対の演習を通して役立つことを理解することで、学ぶことの動機につなげていく。
			継続	介護福祉科	■多様な学生への授業、実習等の個別の配慮をしていく。 ■授業では導入部分を創意工夫し伝え、学生が意欲的に学習できるきっかけをつくる。
			継続	鍼灸医療科	■オンライン学習が学生にとって与える影響についてメリットとデメリットを検証し、今後の新型コロナ第2波時にそなえる。 ■Googlefoamを活用し学生のモチベーションを継続、個々のレベルに合わせた個別対応を実施する。
			継続	看護科	■コロナ禍の状況を見極めつつ、実習指導者の方に校内実習へのサポート協力を依頼し相互の学びにつなげていく。 ■学校と施設との情報共有を密にし継続教育の充実を図っていく。
			継続	キャプションライター養成科	■各教科授業内での自己紹介の機会や発表、「キャリアサポートプログラム」の面接練習等により自己表現力の向上を図る。
			継続	医療秘書科	■自分の考えをアサーティブに伝えることの必要性を理解させ、発表形式の授業やキャリアサポートプログラム等で自己表現力の向上を図る。
			継続	医療マネジメント科	■授業だけではなく学校生活における様々な場面において、自分の考えを他者に理解してもらえよう表現することは非常に重要であるので、1年次から段階を経て意見を発表する機会を与え、徐々に習熟するよう指導する。
			継続	診療情報管理専攻科	■管理士実習では、実習の成果をまとめて発表する機会が設けられており、病院側からのフィードバックを指導に活かしているが、継続して実施する。
			継続	くすり・調剤事務科	■「ドラッグストアのマネジメント」などの科目内で、テーマを決めて、グループ討議・発表、また個人発表などで自分の考えをまとめて発表の能力をつけさせ、就職活動及び就職後に役立てる。
			継続	介護福祉科	■各授業では継続し発表の機会を多くした授業展開をしていく。 ■発表時は、学生の特性を把握し個々に合わせ段階的に進めていく。
			継続	鍼灸医療科	■3年生は症例報告会での発表の場を設けている。

大項目	中項目	2019年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方
			継続	看護科	■発表形式の授業を通じてプレゼンテーション力を高める工夫を継続していく。
		○高校の現場でもアクティブ・ラーニングが進んでおり、今年度からそれに慣れた生徒が卒業する。今まで以上にアクティブ・ラーニングに注力していただきたい。(2019年度総評)	新規	キャプションライター養成科	■クラス運営や学園祭のクラス企画運営等に対する学生一人一人の主体的な取り組みを支援する。
			新規	医療秘書科	■対面授業とオンライン授業の双方において、講義形式の授業の中にも学生の主体的な学びの要素を取り入れ、課題を主体的に解決する力を養う。
			新規	医療マネジメント科	■一方的に講義を行う従来型の授業形式にとらわれず、対話ができるアクティブラーニング型授業への変換を推進する。まず、5月に開始したオンライン授業において、可能な科目から取り入れていく。
			新規	診療情報管理専攻科	■一方的に講義を行う従来型の授業形式にとらわれず、対話ができるアクティブラーニング型授業への変換を推進する。まず、5月に開始したオンライン授業において、可能な科目から取り入れていく。
			新規	くすり・調剤事務科	■毎回、授業後半に小テストを実施して学習した内容の確認と、双方向授業において、それらの知識を使つての対応の演習、提案する演習、考察する演習をすることで、自分から積極的に学ぶ姿勢を身につけていく。
			新規	介護福祉科	■学生が主体となる授業になるよう、体験学習、グループワーク、ディスカッションを引き続き行っていく。苦手とする学生には溶け込めるよう教員側も配慮していく。
			新規	鍼灸医療科	■オンライン授業を導入し、課題の配布、提出はGoogleclassroomを使用する。特に国家試験対策授業および模擬試験は、データ解析がスピーディーにおこなえるGooglefoamを利用し学生へのフィードバックを実施する。
			新規	看護科	■オンライン授業、対面授業双方に活用できるような視聴教材の厳選を行い、教材でのイメージ化を図りながらディスカッションを深める工夫を推奨していく。
		○介護福祉士の養成課程は、大学が2019年度、専門学校が2021年度からカリキュラム変更となる。きちんと対応したカリキュラム・教育内容となるように検討を進めてほしい。	継続	介護福祉科	■2021年度新カリキュラムに向け、コマごとの指導案の充実を図る。 ■毎回の授業では、理解度を確認しながら次回の授業への準備を図る。
(2)教育課程について、外部の意見を反映しているか		○業界出身の兼任講師との打ち合わせ、卒業生や就職先との懇談などから得た情報をカリキュラムに生かす努力を引き続き行ってほしい。 ○カリキュラムの編成は、教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会以外の、外部関係者の声も積極的に取り入れる仕組みを作ってほしい。	継続	キャプションライター養成科	■教育課程に関して業界講師と打ち合わせを行い、指導内容や指導のタイミングを見直す。 ■募集を停止しているため来年度のカリキュラムは編成しない。
			継続	医療秘書科	■業界出身の兼任講師や卒業生、就職先医療機関との情報交換を積極的に行い、業界のニーズに即したカリキュラム編成に努める。
			継続	医療マネジメント科	■業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関とは常に情報交換し、収集した情報をカリキュラムに反映させる。 ■カリキュラム編成に際しては、多種多様の立場の方からより多くの意見を収集するよう努める。
			継続	診療情報管理専攻科	■業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関とは常に情報交換し、収集した情報をカリキュラムに反映させる。 ■カリキュラム編成に際しては、多種多様の立場の方からより多くの意見を収集するよう努める。
			継続	くすり・調剤事務科	■業界、協会との打ち合わせ会、卒業生との交流などを通して、求められているカリキュラムの情報を入手していく。
			継続	介護福祉科	■複数の資格が自信に繋がるよう、科目「介護の基本Ⅲ」では、レクリエーション介護士2級が取得できる内容を織り込んだ。 ■教育課程編成委員会では、今後も委員からの助言をいただき、カリキュラムに反映していく。

大項目	中項目	2019年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方
			継続	鍼灸医療科	■新型コロナウイルスの影響を受け、学内臨床実習施設内の実習が中心となる。学外臨床実習施設での意見を反映させ、目的や評価に対して共通認識のもと進めていく。
			継続	看護科	■卒業生や業界出身の兼任講師、関連医療機関との情報共有は密に行い、技術項目などは残すべき内容と変えるべき内容の検討を常に行っていく。
			継続	CSC	■実習や就職実績のある病院への訪問や就職模擬面接会での聞き取り結果を、キャリアサポートプログラムの日程や内容に生かすよう取り組んでいる。また卒業生の声も卒業生キャリア報告会や日頃の学校への訪問したものへのアンケートを通じての聞き取りを行い、意見を聞いている。これらを引き続き行っていく。
	(4) 授業評価を実施しているか	○アンケート結果をより有効に活用する意味からも、引き続き定期的な見直しにおいて、必要な改善を進めてほしい。	継続	点検委員会	■2020年度より質問項目が変更となった。様子を見て、検討が必要であれば自己点検・自己評価委員会の議題に挙げる。
	4. 資格・免許の取得の指導体制	○国家試験を受験する学科においては、受験資格の要件を明確に説明して指導を行っている。引き続き試験問題の傾向に合わせた指導に期待している。	継続	介護福祉科	■介護福祉士の国家試験義務化が、さらに経過措置が5年間延長(2026年度まで)となったが、在学中の全員合格を目指し各授業での対策や対策講座を継続していく。 ■国家試験受験説明会を実施している。保護者には保護者会において説明を継続していく。
			継続	鍼灸医療科	■受験資格要件は明確にし、文書で学生や保護者に配布している。 ■国家試験の問題は学科内で出題傾向や解答率など分析し、情報共有をしている。各教科担当は授業に反映し指導にあたる。 ■模擬試験実施後、個人成績表を作成し、個々に応じた指導に当たる。
			継続	看護科	■看護師養成所の卒業判定をもって、国家試験受験資格が得られることを入学時オリエンテーションで説明する。 ■卒業要件としての単位修得に関わる内容は学生ハンドブックに記載し、学年が進むごとまた単位に絡む状況発生時に随時学生及び保護者に説明している。 ■国家試験対策としては、1年次、2年次は低学年の模擬試験を実施。3年次には少人数のサポート体制をとって指導を固めているが、コロナ禍における新たな国家試験対策を検討していく。
	5. 教員・教員組織 (2) 教員の資質向上への取組	○授業公開は、兼任講師の参加について、さらなる拡大を期待している。 ○年2回の学内研修は、内容が良いので兼任講師も参加もできるようにしてほしい。	継続	教務委員会	■授業公開については、2020年度は後期での実施を予定している。従来の対面授業の公開のほか、オンライン授業での動画を配信し、それを視聴することで授業公開とする手法も検討している。参観する時間を拘束しない手法であるため、より多くの兼任教員の参加を促していく。 ■2020年度の教員研修は、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う授業の遅れに対応するため、従来通りの集合型による開催が難しい状況にある。動画配信により時間や場所にとらわれない形式での研修方法を模索し、兼任教員も参加できるよう周知していく。
	5. 教員・教員組織 (3) 教員の組織体制の整備	○専任教員と兼任講師の情報交換を学科教員会以外でも進めて、学校全体が良くなっていくように両者の連携、協力による努力を今後も続けてほしい。	継続	校長	■兼任講師の方々も多忙で、メンバーが集合しての会合は日程調整が難しいのが現実なため、Zoom等を利用したオンラインでの学科教員会等の実施も検討したい。
			継続	キャプションライター養成科	■兼任教員との日常的な連絡、打ち合わせにより学生状況の把握に努め、学生対応の円滑化を図る。
			継続	医療秘書科	■年度当初の学科教員会を開催することができなかったが、授業のオンライン化を実施するためのインフラが進み、専任教員と兼任講師間でのGmailでのメールのやり取り、ドライブの共有が可能になったため、これらを生かした情報共有を推進する。
			継続	医療マネジメント科	■年度当初の学科教員会は、コロナウイルス感染防止のため中止となった。兼任教員の先生方の日程調整を再度行い、別途実施することは極めて難しい。学科会議という形式ではなく、毎回の授業の際にコミュニケーションを密に取ることで補完し、連携、協力する関係を構築していく。
			継続	診療情報管理専攻科	■年度当初の学科教員会は、コロナウイルス感染防止のため中止となった。兼任教員の先生方の日程調整を再度行い、別途実施することは極めて難しい。学科会議という形式ではなく、毎回の授業の際にコミュニケーションを密に取ることで補完し、連携、協力する関係を構築していく。

大項目	中項目	2019年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方
			継続	くすり・調剤事務科	■兼任講師の授業出席日に、授業担当クラスの状況、遅刻欠席状況、授業態度、テスト結果などの情報交換をしていく。また、学科内で教師との連絡打ち合わせをこまめに実施していく。
			継続	介護福祉科	■兼任講師とは、学科教員会以外でも授業の際やメール等でのやり取りができていっているので継続していく。4月の学科教員会以外でも必要時は開催していく。
			継続	鍼灸医療科	■鍼灸医療科の教員全体でメーリングリストを作成している。適宜、情報の共有を図っている。また、兼任教員の授業日には直接コミュニケーションを図る。
			継続	看護科	■担任と兼任講師で情報の共有を図り、クラス運営に反映させていく。 ■各学年の状況や学生から講師への要望など、専任教員間で情報共有をはかり協力してより良い学習環境を整えていく。
4 学修成果	2. 資格、免許の取得率	○資格・検定取得の目標は、専門学校教育の大きなテーマの一つであることから、その取り組みと成果を本校の強みとして謳えるように、引き続きしっかりと進めてほしい。	継続	校長	■昨年度は資格・検定の取得において、各学科でかなり良好な結果が出たため、本年度も学科運営計画に基づいて各学科で着実に取り組みを進め、成果に結びつけたい。
			継続	キャプションライター養成科	■技能検定において昨年度と同等の結果が得られるよう指導に当たる。
			継続	医療秘書科	■学科運営計画に示した卒業時検定合格率の達成に向け、一部科目については進捗別クラス編成を継続する。また2年次後期の検定にも挑戦できる科目配置にしているため、検定上位級と医師事務作業補助者の受験者数を増やし、伸び残しのない指導に努める。
			継続	医療マネジメント科	■学科目標を設定し、その達成のための対策を推進する。特に診療報酬請求事務能力認定試験の取得率の増加を目指すとともに、資格未取得のまま卒業させることのないよう尽力する。また業界ニーズの高い医師事務作業補助技能認定試験に注力し、受験率を高め合格者を増やすよう努める。
			継続	診療情報管理専攻科	■診療情報管理士試験合格率を高めるための対策を強化する。また、併せてがん登録実務初級者認定試験、医療情報技術能力検定試験の取得率増加を目指し、必要な対策を実施する。
			継続	くすり・調剤事務科	■学生の苦手な部分、わかりにくい部分を補助的に教える科目をつくり、違う角度から説明、演習問題などにより、学生の苦手意識を払しょくして、より理解を深めることで資格・検定の合格率向上に役に立てていく。
			継続	介護福祉科	■介護福祉士国家試験合格のみではなく、レクリエーション介護士2級検定、介護事務管理士2級技能認定試験へのチャレンジを推奨していく。各資格へ合格に導けるよう指導していく。
			継続	鍼灸医療科	■少人数学科の特徴を活かし、個々の特性や個々のタイムスケジュールにそった細やかな対応にあたる。
			継続	看護科	■国家試験の合格率を全国平均並みにupするため、教員間の連携を図り取り組んでいく。 ■定期的に担任会議を開催し、1年次からの取り組みで強化、工夫すべきところをまとめ、学科教員会議で専任教員への周知を図る。
	3. 卒業生の社会的評価	○職業実践教育の効果については、様々な機会を捉えて意見聴取やアンケートを行っているが、卒業生や就職先等の評価を確認するための学校全体としての調査方法を引き続き検討し、実践することが望まれる。特に、卒業後3年目ぐらいまでの動向を継続的に調査する方法を考えてはどうか。	新規・継続	校長	■校友会事務局とも連携し、まず各学科・CSCが中心となって必要なデータ収集の方法を確立し、その結果を教務委員会を中心に分析するようなプロセスを検討したい。
			新規・継続	CSC	■年度末にかけて、実習先や内定先への訪問に際し、医療機関等の評価の確認を行っている。 ■またGメールを活用してのより効率的な調査方法の検討を今年度中に進める。
		○本校卒業生は、就職先において高く評価され、多くの信頼を得ているが、職業実践教育の評価の観点からも、就業動向の定期的な把握が必要であり、訪問、面談をはじめ、Gメール等による調査も進めて、引き続き状況把握に努めてほしい。	継続	CSC	■年度末にかけて、実習先や内定先への訪問に際し、医療機関等の評価の確認を行っている。 ■2015年度生のGメールでの調査を2018年度末に実施したが、調査方法の検討やGメールの卒業後の使用方法についても周知していく必要がある。

大項目	中項目	2019年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方
5 学生支援	1. 就職等進路	<p>○学生の多くは、学校求人により就職活動を行っていることから、引き続き学生の希望に基づく求人先の確保・開拓に努めてほしい。</p> <p>○進路指導協議会を通じて、各学科とキャリアサポートセンターの連携を推進し、社会状況の変化に迅速に対応した学生への就職指導・活動支援を引き続き進めてほしい。</p> <p>○キャリアサポートセンター担当職員の対応力は学生の就職指導・活動支援に直接かかわるものであることから、引き続き担当職員のスキルアップを進めてほしい。</p>	継続	CSC	<p>■2019年度、特に医事系において大学病院への正職員採用や国立病院、日赤への採用といった大規模病院への採用が大幅に増えた。2019年度の実績ある病院と連携し、2020年度への採用へ繋げていく。</p> <p>■2019年度、進路指導協議会と連携し、インターンシップのあり方の再編を進めてきた。2020年度は、この改編引き続き進めていく。</p> <p>■担当職員の資格取得、研修への参加を積極的に行っている。今年度も引き続き、積極的な参加を促していきたい。</p>
	2. 中途退学への対応	<p>○入試区分や入学動機の強弱、入学後の学習や学校生活への適応をはじめ、退学の原因は年によって傾向が異なるが、記録の整理、分析をしっかりと行い、情報共有の仕組みを積極的、効果的に利用して、引き続き防止活動を進めてほしい。</p> <p>○表れた兆候への早めの対応、指導が大切であることから、事前の兆候を掴むための積極的なコミュニケーションの工夫も進めてほしい。</p> <p>○退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のミスマッチを防ぐことが最も大きな要因になると思われることから、オープンキャンパスにおいては、退学者を限りなくゼロにすることを想定したコミュニケーションを、引き続き工夫してほしい。</p> <p>○重点目標として取り上げてきた退学防止への試みが実を結び、退学者が減った。今後もさまざまな面で学生をサポートして、退学者をゼロに近づけるようにしていただきたい。</p>	継続	校長	<p>■学生委員会を中心に、「退学防止調査票」「退学届・学籍異動の記録」を活用した事例研究、担任との退学防止の意見交換会を引き続き実施し、防ぐことができる退学については、早めの対応で極力防ぐ対策を一層強化する。</p>
		<p>○入試区分や入学動機の強弱、入学後の学習や学校生活への適応をはじめ、退学の原因は年によって傾向が異なるが、記録の整理、分析をしっかりと行い、情報共有の仕組みを積極的、効果的に利用して、引き続き防止活動を進めてほしい。</p>	継続	学生委員会	<p>■退学防止調査票を前期2回、後期2回の4回、担任に提出してもらい、退学の予兆を早期に察知し、それを学科長にフィードバックし、退学抑制を図る。現在の対象は1年生のみだが、1年次に上がった事例は2年次の様子も確認するかどうか検討している。</p> <p>■hyper-QUの結果と退学との関係について分析する。</p>
		<p>○AO入試による入学予定者への入学前指導プログラムの効果に引き続き期待している。</p>	継続	校長	<p>■昨年度末の3月に実施を予定していた入学前オリエンテーションは、やむなく中止としたが、今年度以降も対象となる入学予定者の範囲をさらに拡大し、実施を図りたい。</p>
			継続	キャプションライター養成科	<p>※AO入試を実施していないため該当しない。</p>
			継続	医療秘書科	<p>■2020年度入学生への入学前指導プログラムは、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。2021年度生に対しては、実施の方向で準備を進めていく。</p>
			継続	医療マネジメント科	<p>■2020年度入学生に対しての入学前指導プログラムは、コロナウイルス感染防止のため中止となった。今年度の2021年度生に対しての同プログラムは実施を予定し準備する。</p>
			継続	診療情報管理専攻科	<p>※2年制卒業生のみが入学するため、入学前指導プログラムの対象者はいない。</p>
			継続	くすり・調剤事務科	<p>■入学前指導プログラムの効果は、現時点ではまだ検証できていないので、今後引き続き実施と検証をしていく。</p>
			継続	介護福祉科	<p>■2020年度生は中止になったが、入学前指導プログラムは介護への導入に繋がっていると認識している。引き続き導入に向けた内容で継続していく。</p>
		継続	鍼灸医療科	<p>※2019年度からの入学生はいないため該当しない。</p>	
		継続	看護科	<p>■新型コロナ感染防止のため2020年度入学生へのプログラムは中止となった。2021年度生に対しては実施の方向で準備を進めていく。</p>	
		継続	広報室	<p>■次年度も引き続き、オープンキャンパスで個別相談等を通じて十分な説明を心がけ、ミスマッチのない学校選択に結びつけていく。</p>	

大項目	中項目	2019年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方
			継続	キャプションライター養成科	※募集停止によりオープンキャンパスの機会がないため該当しない。 ■現学生とはオープンキャンパス以来の良好な関係の維持に努める。
			継続	医療秘書科	■オープンキャンパスにおいては本校他学科についても理解していただいたうえで、自分の意思で入学を希望していただけるよう、引き続き努める。
			継続	医療マネジメント科	■退学者ゼロは現実的には難しい。オープンキャンパスでは学科の特性を十分に説明し、理解してもらったうえで入学していただくよう尽力する。
			継続	診療情報管理専攻科	■1年間という短い期間での退学者は元々少ないが、オープンキャンパスでは学科の特性を十分に説明し、理解してもらったうえで入学していただくよう尽力する。
			継続	くすり・調剤事務科	■オープンキャンパスに参加した生徒には、2回以上の参加や授業見学、他の学校、他の学科への見学などを勧めて、ミスマッチがないようにアドバイスをしていく。
			継続	介護福祉科	■複数回のオープンキャンパスへの参加が退学防止に重要と考える。 ■AO入学者の退学が多いため、入学後はアプローチをし退学防止を図る。
			継続	鍼灸医療科	※募集停止のため、該当しない。
			継続	看護科	■オープンキャンパスの時期、内容については随時「入試委員会看護科部会」にて話し合い、決定事項を学科内におろして協力を求めた。2021年度生に向けては、限られた条件下で伝えていく必要がある。広報と協力のもと内容の検討を図っていく。
5. 保護者との連携		○保護者会は、丁寧な説明や意見交換から生まれる安心感が、本校の教育の信頼に直接繋がるものでもあることから、実施あるいは検討と実現に向けた取り組みを引き続き進めてほしい。	継続	校長	■在校生の保護者会については、各学科の個別の事情を考慮しつつ、オンラインでの実施も視野に入れて実現を図りたい。
			継続	キャプションライター養成科	■個別対応を基本とし必要に応じて保護者に連携を求める。
			継続	医療秘書科	■保護者会開催の要望は一定数あり、実施の必要性を実感している。本年度は、状況に応じてオンラインによる実施も視野に入れている。より多くの保護者と連携を取り信頼を築くとともに、学校生活、進路決定、就職への協力を仰ぎたいと考えている。
			継続	医療マネジメント科	■先行して実施した学科での参加状況を鑑みると、現状では来校していただき一斉実施する形での保護者会の開催は考えていない。ただ、学校からおよび学科から保護者宛てに何らかの情報発信の必要性は感じているので、他の方法を探りたい。希望者に申込制でのオンライン面談などを検討していく。
			継続	診療情報管理専攻科	■先行して実施した学科での参加状況を鑑みると、現状では来校していただき一斉実施する形での保護者会の開催は考えていない。ただ、学校からおよび学科から保護者宛てに何らかの情報発信の必要性は感じているので、他の方法を探りたい。希望者に申込制でのオンライン面談などを検討していく。
			継続	くすり・調剤事務科	■学生との個人面談を頻回に行うことで、早期の問題点を解決している。しかし、どうしても保護者との話し合いが必要となった場合は、個別に保護者へ連絡を取り、話し合いをすることで、解決を図っている。今後もこの方法を継続していく。
			継続	介護福祉科	■1・2年生合同保護者会、個人面談を継続していく。
			継続	鍼灸医療科	■保護者へは入学時、進級時および三者面談にて学園生活の理解と協力を得ている。 ■3年生の保護者には受験資格要件を明確にし、受験までの流れを文書で示し周知していく。

大項目	中項目	2019年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方
			継続	看護科	■各担任は保護者との連携を図っていく。社会人学生であっても、保護者の意見を確認し進路の決定に携わっていく。
		○保護者との連携は、学科ごとの検討だけではなく、学校全体としてのシステム作りも検討してほしい。	継続	校長	■今年度は入学式が中止となり、終了後の会場での保護者に対する協力の呼び掛けができなかったが、学校として保護者と連携するシステムについては、学科長会議等の場で、引き続き検討したい。
		○成績等の報告についても個人情報の保護をはじめとした必要な対策をとった上で、実施に向けた準備を進めることに引き続き期待したい。	継続	校長	■昨年度一部の学科で試みられた、高校新卒で入学した学生の成績表を保護者へ郵送し、学生の学習状況を保護者に通知する仕組みについては、全学的に拡大させることも検討したい。
			継続	事務局長	■昨年度一部の学科で行われた在学生の保護者に対する成績送付を、全学科が行うのであれば、低リスクでローコストな送付方法を引き続き検討したい。また、単に送付することを目的とするのではなく、家族の協力を得て、退学防止や学習意欲の向上に役立てるなどの工夫も検討したい。
6. 卒業生・社会人		○卒業後の相談とフォロー体制の充実、学校選択の重要な観点でもあることから、引き続き前向きな取り組みに期待したい。 ○キャリアアップを目指した転職への支援を行っていることを知らない卒業生も多いと思われるので、そのような情報も提供して、随時、学校に相談できるような受け皿を広げてほしい。 ○Gメール等を活用した、(卒業生の状況が把握できるような)ネットワーク作りを進めてほしい。また、ネットワーク作りだけでなく、卒業生に対するフォローの強化も進めてほしい。	継続	CSC	■既卒者の就(転)職希望者にも積極的に対応している。2020年度は、より積極的に既卒者へのアプローチを行っていきたい。 ■ホームページを通じた卒業生への就職支援にも力を入れ、卒業生がより分かり易いものへ改善していきたい。 ■2019年度、Gメールを通じての転職相談等も受付けており、実際にあっせんを行い内定した例もあった。2020年度は、より効率的にGメールを活用し、転職者への相談・あっせんを行っていききたい。
		○Gメールを活用することによって卒業生の動向を調査しやすいと思うが、年度末1回という、時間が空いた中では回答しづらい部分もある。卒業生の声をシラバスに生かすことも大事だと思うので、質問事項を整理した上でもう少しまめに配信してもよいのではないか。CSCや担任からの配信もあってよい。(2019年度総評)	新規	キャプションライター養成科	■卒業生の状況把握と現学生の就職活動の参考とするため、Gメールによる連絡時期を検討する。
			新規	医療秘書科	■卒業生の動向調査は懸案事項の一つであり、卒業生キャリア報告会やオープンキャンパス等、卒業生が来校する際にはヒアリングシートを利用した動向調査をしている。これを継続していくとともに、CSCや校友会との連携を図っていく。
			新規	医療マネジメント科	■現状では、担任教員は在校生への対応を優先せざるを得ず、卒業生への頻回のメール発信は負担が大きく難しい。今後もCSCからの動向調査や校友会からの情報発信の機会を活用していく。同時に、オープンキャンパスや卒業生キャリア報告会など卒業生が来校する機会には、積極的に意見を聞き取り参考にする。
			新規	診療情報管理専攻科	■現状では、担任教員は在校生への対応を優先せざるを得ず、卒業生への頻回のメール発信は負担が大きく難しい。今後もCSCからの動向調査や校友会からの情報発信の機会を活用していく。同時に、オープンキャンパスや卒業生キャリア報告会など卒業生が来校する機会には、積極的に意見を聞き取り参考にする。
			新規	くすり・調剤事務科	■卒業年度の学生は、ホームカミングデー開催により、情報を収集する。それ以前の卒業生には、学校のホームページで、学科の活動を逐次掲載しているため、その中に卒業生からの連絡をいつでも受けつけています、といったコメントを継続的に記載して、発信していく。
			新規	介護福祉科	■現状は、卒業生への連絡等は教員個々とのメールでのやり取りが主になっているため、Gメールを活用する機会がない。 ■卒業生の訪問は比較的多いと感じている。来校時には、情報収集を必要に応じてシラバスや、授業、実習に反映していく。
			新規	鍼灸医療科	■2020年度、鍼灸医療科同窓会を開催予定である。鍼灸医療科が閉鎖された後でも、校友会を通じて業界の動向や情報などの発信の場として、また教員や卒業生間の親睦を深めるため、Gメールを積極的に活用していく。
			新規	看護科	■国家試験再チャレンジの卒業生への対応、連絡にGメールを活用してフォローしている、今後も学校との連携のツールとして活用していく。

大項目	中項目	2019年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方
			新規	CSC	■2020年3月卒業生に対し、2020年度4月5月において感染症の影響から、勤務形態が不安定な卒業生も出ているとみられ、Gメールによる調査を行うこととした。今後においても、引き続き調査を行っていききたい。
		○卒業生支援講座については、卒業生のニーズ把握に着眼点があると思われるので、引き続きGメールなどを使っての調査やPR方法を工夫して参加者の増加を図ってほしい。 ○卒業生支援講座は、卒業生に対するリスパケが足りない部分があると感じた。AO入試の入学前指導プログラムと同じように、学校全体で考えて取り組んでいただきたい。	継続	校長	■卒業生支援講座については、企画室が校友会と連携して運営統括する仕組みに改めたが、卒業生の学びのニーズを把握して社会人(既卒者)対象の学び直し教育につなげるためのプレ講座と位置づけ、引き続き、講座企画の具体化と受講者へのサービス向上を図りたい。
			継続	CSC	■2019年度、卒業生支援講座について、CSCにおいても特に参加者の多いレセプト改定の講座のサポートを行った。2020年度は、卒業生支援講座の企画や募集方法についても学校全体で取り組む必要がある。 ■運営の仕方も改善の余地があり、学校全体として見直していききたい。
			継続	校友会事務局	■卒業生支援講座については、Gmailを使っての参加促進を引き続き行っていく。本年度のように学園祭に合わせ学科同窓会とも連携していくなど、キーとなる卒業生に協力をいただき、企画から運営までを行える体制づくりを検討している。また、2019年度の卒業生に対して、校友会活動の案内をGmailにて送信し、今後の積極的な参加を呼びかけた。2020年度においても継続していききたい。
6 教育環境	1. 施設・設備等	○本校の教育に積極的に生かす必要性からの学校内のWi-Fi(無線ネットワーク)設備、また、必要に応じたバリアフリーの目標などの検討が引き続きの課題である。	継続	学務課長	■オンライン授業だけでなく、対面型授業時でも利用できるようにWi-Fiの整備を検討する。 ■バリアフリーについては、教職員の意見を聞いた上で優先順位を考えながら検討していく。
	2. 学外実習、インターンシップ等	○インターンシップ専攻生のフォロー体制の強化のため、関係者による情報共有と一層の連携が引き続き望まれる。	継続	CSC	■2019年度は各学科と連携し、インターンシップ専攻生のフォロー体制の充実に努めてきたが、結果としてインターンシップの中止を無くすことができた。2020年度は、その体制を踏襲したい。
			継続	医療秘書科	■インターンシップ専攻生へのフォロー体制はCSCおよび医事系学科で連携している。引き続き、連携体制を継続していく。
			継続	医療マネジメント科	■インターンシップ専攻生へのフォロー体制の仕組みは既に構築されており、その効果は立証されている。今後も継続して実施していく。
	(2)学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	○感染症に関しては、学校保健安全法に基づき対応しているが、学内感染を予防するためにも、インフルエンザなどについては、引き続き所轄からの流行情報を的確、適切に発信して、周知、徹底を図ることが望まれる。	継続	学務課長	■インフルエンザや新型コロナウイルスの感染防止対策について、学内ルールを取り決めて実施しながら、教職員の意見を取り入れ、対策を改善していく。 ■マスク着用、手洗い、アルコール消毒について、学生・講師・教職員全員に周知して徹底する。 ■流行情報の把握や保健室職員との連携により、学生や教職員に情報提供を行いながら感染防止を図る。
7 学生の募集と受入れ	1. 学生募集活動	○高校における専門学校の理解や認識が必ずしも進んでいないのが現状と言われている。高校校生の場合、保護者に向けた情報提供も必要である。十分な説明をしないと分かりにくいと思われる学科もあるので、仕事内容、雇用形態、卒業生の様子、企業の評価など、情報提供をもっと工夫してほしい。	継続	広報室	■高校訪問を1都3県の重点校を中心に行い、高校教員へ本校の特徴を理解してもらったうえで信頼関係の構築をはかっていく。 ■昨年度生募集活動の進捗を確認しつつ、2021年度生募集活動計画を作成するなかで、アピールすべき情報を精査し本校のストロングポイントである就職の強さと業界とのつながりの厚さを訴求していきよう心掛ける。
		○医師事務技術専攻科の募集活動は、医療現場において本校の3年間の教育内容が必要であることを上手く説明することが望まれる。	継続	医療秘書科	※医師事務技術専攻科の募集は停止。
			継続	医療マネジメント科	※医師事務技術専攻科の募集は停止。

大項目	中項目	2019年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方
			継続	広報室	■高校ガイダンスやオープンキャンパスでは医師事務作業補助業務の内容を説明し、高校生の関心を引けていることがうかがえる。医師事務作業技術専攻科は募集停止となるが、新学科の募集に向けて、これからの医療機関で必要とされており、ニーズが高く、求人も増えていることを伝えていく。
		○在校生のコンテストや研究発表における受賞は、本校教育の成果を表すものであることから、積極的にアピールすることを引き続き進めてほしい。	継続	広報室	■学科と連携して継続して実施する。
9 法令等の遵守	2. 個人情報保護	○学生には、特にSNSについて、個人情報保護、プライバシー保護、守秘義務等の観点からの注意喚起が引き続き求められる。	継続	事務局長	■個人情報の扱いやSNSの利用についての注意点は、学生生活ガイドにも掲載し、入学時から指導を行っている。また、保護者への成績送付、広報活動等への協力を得られるように、学生に「個人情報取扱に関する同意書」の提出を求めている。
			継続	学生委員会	■1か月に1回以上のペースで学生委員会メールを送信する。内容は保健室・学生相談コーナーの案内、イベントの案内、ボランティア募集について、SNSの利用上の注意について、個人情報の保護に関する注意喚起を予定している。
	3. 学校評価	○学校からの報告、説明に対する評価だけでなく、委員からの意見、提案に基づく意見交換を行う時間を増やすことが望まれる。	継続	自己点検委員会	■昨年度に引き続き、意見交換の時間を設置できるよう、学校関係者評価委員会の委員長と毎回、事前に検討して取り入れる。
10 社会貢献・地域貢献	2. ボランティア活動	○学業が忙しい中で、ボランティア活動の奨励、支援には難しさはあるが、人材育成の視点からも有意義なものであり、さらに仕掛けを工夫して、引き続き進めてほしい。 ○東京都専修学校各種学校協会のホームページへの情報掲載を引き続き行ってほしい。	継続	学生委員会	■学生委員会メールを活用して、随時もしくは少なくとも2か月に1回程度を目安に、ボランティア募集情報を送信する。 ■東専各々が公開しているホームページ「ボラ活」にて、ボランティア活動の様子を紹介する。年に1回更新する。